

「実演芸術家等に関する人材の育成及び活用について」審議経過報告に
対する意見募集の結果について

1. 意見募集方法

(1) 意見募集の周知方法

- ・文化庁ホームページに掲載
- ・記者発表
- ・資料の配付

(2) 意見提出期間

平成21年2月2日～平成21年3月5日

(3) 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール

(4) 意見提出先

文化庁文化部芸術文化課

2. 意見募集の結果

意見提出数：27通

整理した意見数：40件

3. 意見の概要

別紙のとおり

該当箇所	1.実演芸術化等の育成及び活用に関する基本的な考え方
全体	<p>○稽古事として舞踊を習っている人が非常に多いのに対して、プロフェッショナルな舞踊家というものが少ないのは、各舞踊団の束縛が厳しいからというのが一番の原因であると思います。舞踊団自体は束縛しているつもりは無くても、本人が「小さい頃から育ててもらったご恩がある」「舞踊団の仕事や舞台の準備等でそれ以外のことに割く時間がない」「その舞踊団において指導することによって報酬を得ているため、特に舞踊家としての報酬には期待していない」「一度外に出てしまうと舞踊団に戻りづらい」などというような考えもあると思います。たとえば都道府県の芸術劇場付属の舞踊団を作るなどして、個々の舞踊団の仕事も並行してできるような仕組みを考えていくとか、既に活躍している振付家を各舞踊団とマッチングして作品を作ってみるとか、そういった試みも必要なのではないかと思ます。お稽古事とはいえ、熱心にやっている方が多くて、技術的にも素晴らしい方もたくさんいるので、本当に惜しい事だと思ます。(34歳旅行業・振付家)</p>
(1)舞台芸術を振興する意義	<p>○舞台芸術を振興する意義の3つ目であげられている公的な助成などの支援の重要性は、私共の団体でも切実に思ます。私共は現代演劇を年間2回上演している団体ですが、毎公演ごとに多くの実演家に関わりその実演家への報酬の支払いもちろんです、舞台の製作・設営・運営に係る経費や会場費の負担などはとても多額な費用を要します。他芸術もそうでしょうが特に私共「演劇」を創作している団体は、大道具・小道具・衣装・かつら・照明・音響・会場設備使用料など本当に多額の費用を要します。これらの経費を入場料収入などで賄おうとするとお客様一人一人に多額な入場料を負担して頂かなくてはいけない現状になってしまいます。公演の実施回数にしましてもどうしてもお客様が会場に足を運びやすい週末・休日に公演をしないと観客数も確保できないのが現状です。そういった状況の中でも私共の団体では、他団体でも活躍中の実演家も関わり、そして次世代活躍が期待されるだろう若い実演家も多数公演に参加し、その若い実演家を育成しながら「芸術文化」の創造、伝達、発進に努力をしております。実力のある実演家を育て質の高い文化を発進していくためには、メディアを否定するわけではありませんがやはりテレビや映像よりは、生の舞台・お客様が目の前にいる状況の中で芸を披露する「舞台で活躍できる俳優」が育っていかねばいけないのではないかと切実に思ます。そんな俳優がこの国の芸術文化と向き合せて向上できるための指導や活躍できる環境づくりを、個々の団体でももちろんですが国全体でも考えていかなくてはならないのではと思ます。そういったものに対する国の援助制度の必要性はきわめて重量なことだと感じます。(演劇団体関係者)</p> <p>○舞台芸術は経費の観点から「高額な入場料を負担できる観客だけが鑑賞できるという傾向に拍車がかかる」事について、一つ抜けている視点があります。現状において多くの舞台芸術は東京で上演されており、地方の観客がそれを観賞する為には高額な入場料のみならず「交通費・宿泊費」をも負担しなければならず、結果として地方の国民が優れた文化芸術を享受する機会を逸している現状があります。全国巡業を行うトップレベルの舞台芸術については、鉄道会社や航空会社と提携して作品チケットを販売する動きが多少ありますが、それとて高額な交通費を負担する事に代わりはなく、優れた作品に触れる機会を、特に青少年および交通費・宿泊費まで負担できない層から奪っており、この点についての具体的な施策が、本報告においてまったく欠如しています。(34歳・男性)</p> <p>○報告の冒頭にある、「舞台芸術を振興する意義」を認めます。報告の2ページ「多額の投資を要する。高額な入場料を負担できる観客だけが～、公演自体が成立しなくなる～、助成などの支援が極めて重要」という文言通り、実践のための資金作りに日々、苦戦しております。しかしながら、あまりにも社会的にこの分野の重要性の認知、また、見えないものに投資する価値の認識が低すぎる、と感じております。楽器演奏のお稽古ごとをしている子は多いのですが、それと鑑賞するということとが結びついていません。親が子どもの習い事と芸術を享受する、ということをつなげて考えることができていないのです。ピアノはピアノで、音楽全般、その他芸術全般をたしなむということに思いは及んでおりません。小～高校での演劇、表現の体験を1日も早く始めた方がいいです。以下、2点がこれからの急務と考えます。1.一般社会、地方行政への重要性、費用がかかり、すぐに回収できる性質のものではないが、将来への投資価値があるということの、周知、啓蒙2.実演家、これにたずさわる団体、アートマネジメント活動への資金調達、助成範囲の拡大(45歳・表現教育指導者)</p> <p>○「舞台芸術を振興する意義」として「音楽、舞踊、演劇等の舞台芸術」の重要性とその困難について言及されていることに我が意を得た思いでした。「卓越した実演芸術家等の育成」を提唱され、推進されることに共感と敬意を抱きます。舞台実演こそが優れて実践的な実演芸術家を産み育てる。(62歳・会社員)</p> <p>○報告書の中に「高額な入場料を負担できる観客だけが鑑賞できるという傾向に拍車がかかったり」との表現がありますが、舞台芸術公演がライブであるため、遠くから観に行くことが難しく、鑑賞機会に地域格差が生まれやすい特性があることも、盛り込んでほしいと思ます。(35歳・NPO事務局長)</p>

<p>(2) 実演芸術化等を育成及び活用する必要性</p>	<p>○「地域の実情を見ても、全国的に劇場等のハードの整備は進められてきたが、文化芸術活動を根付かせていくためのソフト面の充実は十分とはいえず、地域における公演の鑑賞機会は極めて少ない。」等とあるが、これは、どこの地域のことを言っているのでしょうか。いろんな地域の実情が混同されて、具体的にこの条件に適合する地域は少ないように思います。地域と言うときに、劇団数が100近くある大都市もあれば、5指に満たないような地域もあります。これらの地域はわけて考える必要があります。本報告では、これらの地域の実情があまりに見えていないように思います。そして、その提言も地域にとって実効性がない内容になっていると思います。(35歳・NPO事務局長)</p> <p>○地域における公演の鑑賞機会は極めて少ない。(35歳・NPO事務局長)</p>
<p>(3) 基本的なスタンス</p>	<p>○「文化芸術団体の自主的・主体的な取組を尊重することを基本」としておりますが、各ジャンルの文化芸術振興財団などは多くが東京に本部を置いており、協会の殆どが東京在住者という現状があり、地域の活動を殆ど把握・支援していない現状があります。また、本報告5ページ目で述べられている「トップレベルを支える中堅層も、その殆どが東京で活動しています。この現状下において「トップレベルを支える中堅層が着実に仕事をしていける構造を作る」と、結局は東京に資源投下される率が増し、地域の「中堅層になろうと努力している団体」の活動機会を阻害しかねないのではないかと、と憂慮するものであります。文化芸術の創作活動を行う団体に、各財団や国・地方公共団体が支援した金額について、県民一人当たりの平等性が保たれているのか、再検証する必要がある。(34歳・男性)</p>
<p>(4) 今後重視すべき視点</p>	<p>○ 舞台芸術に触れる機会の地域間格差を解消し、全国どこでも優れた舞台芸術に触れることができるような環境の整備を図る必要がある。鑑賞機会についてかかれておりますが、多くの公共劇場ができ鑑賞機会についてはある程度改善されてきております。もちろん、今後も東京以外の地域で鑑賞機会を増やしていく必要があります。現在東京を除く多くの地域では、優れた作品をつくることのできる団体こそが極めて少ないのです。芸術文化環境の地域間格差の是正のために必要なのは「地域で優れた作品を創る環境の整備」です。「良いものは東京でつくって、地域はそれを観ればよい」という考え方からの脱却を求めます。地域が誇れるような才能を育てるためには5年から10年の年月が必要です。それだけの時間を費やしても才能と出会わない地域があることも考えられます。ほったらかしていても才能が生まれてくる、人口がある東京とそれ以外の地域はまったく違います。東京以外の地域において、「地域で優れた作品を創る環境の整備」が必要であることを盛り込んでほしいと思います。(35歳・NPO事務局長)</p> <p>○ 地方の公共施設が年間予算で少額でもいいから、自由に芸術活動に使える予算があり、その使い道をきちんと評価できるようなシステムがあるといいかと思えます。予算の使い道の創意工夫が評価に繋がれば地方色豊かな使い道が発展してゆくかもしれません。そうした予算が地方にあれば、一度作った作品が、地方ツアーなどで巡回していくことにも繋がるのではないかと思います。また、レジデンスや、地方でのアウトリーチ等、アイデアや実行力、情熱のある人が企画をプレゼンして実現する可能性も出て来ます。(43歳・コンテンポラリーダンサー、振り付け師)</p> <p>○ 地元での創作環境の整備が必要であり、公共施設の使用を「インディペンデント・アーティスト支援」という登録制度によって、公に、正々堂々と練習場として使えるように、ぜひとも現行改正してほしいです。「インディペンデント・アーティスト支援」1) 収支を含めた活動状況を毎期報告する。2) 公演実施の際には、登録施設に招待券を配布する。3) 招待券は、公共施設職員または施設に出入りする他の一般利用者によって、必ず使われなければならない。4) 授業料徴収するクラス運営は行わない。5) 以上の規定を守れば、使用人数については1人以上から会場の限度枠までを可能とする。6) アーティストの施設予約は、一般のサークル活動の優遇策に準ずるが、予約については、月初めのサークル抽選予約日の終了した後に行う。日常的に精進が必要な舞踊芸術活動を支える場所として公共施設が門戸を開いてくれると、舞踊における舞台芸術の実演家全体のレベルアップにもなり、ひいては、海外に劣らぬ人材を生む結果につながってゆくのではないのでしょうか。(43歳・コンテンポラリーダンサー・振り付け師)</p> <p>○ 人材育成について、海外に進出するジャンルとしては、舞踏や演劇が多く、大衆芸能というジャンルになっている講談は言葉の壁があり、海外進出など余りありません。しかし、高齢化社会となる今日において、また子供達の道徳教育が叫ばれる中講談はこころを潤し、こどもに人の道を説くものであると思えます。講談協会の講談師の育成は江戸時代から続いている、師匠が弟子を直接指導、育成し、そして協会の公演に出演することによって芸を磨くというやり方です。私は講談は伝統芸能だと思うのですが大衆芸能と言うことで育成も余り重くは見えてもらえていないようです。文化政策審議経過報告にもありましたが、舞台を踏んで芸を磨くというのがいかに重要であるかという意見には大賛成です。舞台の上で学ぶ。お客様を前に置いて分かるものが多々あるからです。(58歳・講談師)</p>

該当箇所	2. 実演芸術家等の育成及び活用に向けた具体的な方策
全体	<p>○人材育成拠点について、現在の芸術大学にはまだまだ舞踊、演劇、学科がないのでの設置を大学側の努力が望まれます。一方、新国立劇場の研修機能を持たせた公立の機関も必要である。東京一極集中ではなく、北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州の9地方に設置し、費用はその地方自治体が応分に負担します。現在、施設面から考えても、その気になれば実現するのではないのでしょうか。関係者の発奮を望みます。(69歳・ダンスプロデューサー)</p> <p>○愛知県の場合、公立の高等学校に「美術科」「音楽科」は存在するのに対して「舞踊科」が存在しません。今後、本腰を入れて舞踊家を育てていくのであれば、そういった学科の設置も検討していただけたらうれしいです。もしくは、選択芸術科目として「舞踊」も加えるということもよいと思います。小・中・高校をとおして「舞踊」が「体育」のなかに組み込まれていることにも疑問を感じます。「美術」のなかで身体を使って表現してみる授業があってもよいと思います。(34歳・旅行業・振付家)</p> <p>○身体表現という点では特に、元来持っている身体が東洋的であるため、無理に西洋的な身体表現を学ぶ必要があるのかどうかという疑問もあります。もちろん、身体訓練の一つとして西洋のダンスを取り入れることはよいと思いますが、日本人としては、たとえば海外留学するよりもむしろ能や日本舞踊の所作をじっくりと研修する機会があったり、武道の修行をしてみたり、ヨガを習得してみたりするという必要も大いにあるのではないかと思います。伝統芸能とコンテンポラリーとの境界をなくしていくような試みに対してどんどんバックアップしていただけるとよいと思います。(34歳・旅行業・振付家)</p> <p>○審議経過報告では、舞台芸術の振興にあたって、実演芸術家等の役割を重視し、その育成と活用に取り組む必要性について述べられていますが、この審議を踏まえ、分野ごとの特性や状況の違い、現状に即した対応が、すみやかに取り組まれていくことを願っています。(芸術団体関係者)</p>
(1)卓越した芸術家等の育成 i)フェローシップ制度の充実 ii)文化芸術団体における人材育成への支援	<p>○卓越した実演芸術家を育成するための課題は、分野によって状況が異なるうえに期待することも人によって少しずつ異なっています。これまで、国の人材育成に関する施策は分野共通の要項にもとづいて行われ、かつ支援事業に対する応募者の自主的な計画の採択という形で進められてきたため、大局的な見地から、強化したり取組みの不足を補ったりすることが難しい、当事者が実現しやすい範囲に留まってしまう、という欠点がありました。今回、分野ごとの違いが議論され、重視すべき方向性が明文化されたことは評価いたします。「i)フェローシップ制度の充実」「ii)文化芸術団体における人材育成への支援」で触れられているように、現行の施策については、分野ごとの現状に照らし合わせ、早急に改善されていくことが必要です。専門家育成は、関与する人々に高い専門性が必要で、かつ関係者の数が少なく、広く議論がなされることが少ないという傾向がありますが、今後は、支援施策が目指している方向性、優先課題、期待されること、審査・選択の基準などについて、分野ごとに明らかにして、施策の策定や支援対象の選択に関与する人はもちろんのこと、分野ごとに情報が共有され、それぞれの実状に合った人材育成事業が具体的に計画され取り組まれることを望みます。(芸術団体関係者)</p>
(1)卓越した芸術家等の育成 ii)文化芸術団体における人材育成への支援	<p>○「現在は個別団体を対象とした小粒な企画が多いため～」とあるが、これらの統括団体は、ほとんどが東京に所在するのではないのでしょうか。分野の違いについての配慮がありますが、と同時に地域によっての違いについて配慮した記述をお願いしたいと思います。演劇という分野ひとつをとってみても、東京所在の統括団体では地域での人材育成の具体的な指針を明確にすることは、不可能だと思います。(35歳・NPO事務局長)</p>
(1)卓越した芸術家等の育成 iii)新国立劇場に求められている役割と取組	<p>○新国立劇場に求められる役割の一つに、新国立劇場で創られた先進的で質の高い作品を全ての国民が観られるようにするということが入るべきだと思います。国民の税金で創った芝居が、東京でしか観られないというのはおかしなことです。ハード的な制約はあるでしょうが、一定の割合で国内のツアー公演を積極的に行い、最先端の芸術を各地域で観られるようにするべきです。(35歳・NPO事務局長)</p> <p>○新国立劇場の研修事業の充実への期待が書かれていますが、研修所のスタッフや講師の工夫で対応できることには限りがあり、「人材育成の殿堂」を目指しての抜本的な強化は、研修者が研修に専念できる環境の整備、講師陣・場の拡充が不可欠です。すみやかに、①研修の一層の充実に向けた計画の策定、②講師の増員や処遇改善及び研修所の環境改善、③それらを可能にする予算増の措置がとられることが必要だと考えます。なお、研修所の成果の発信としては、研修修了者の発表のみならず、人材育成の実践や方法論の研究と開発の蓄積とその情報発信も重要と考えます。人材育成に当たるほかの組織、地域の専門家らとの情報共有、ネットワークの構築も含め拡充計画の中に盛り込まれることが望ましいと考えます。(芸術団体関係者)</p>

	<p>○新国立劇場の貸し出し内容の改善を提案します。新国立貸し出しの時は、劇場ホール本番と仕込みのみでなく、その前にリハーサル室1回もしくは2回の使用を含んだ使用になると実寸で作品準備でき、芸術向上につながる。(43歳・コンテンポラリーダンサー、振り付け師)</p>
<p>(1)卓越した芸術家等の育成</p> <p>iv)学校教育における専門人材育成の推進</p>	<p>○芸術系大学の人材育成への期待が述べられていますが、とくに鑑賞機会が少ない首都圏域以外の地域では、大学が地域に貢献することへの期待が大きいと思われます。芸術団体や公立文化施設と大学などが共同で人材育成に取り組むことを促進する必要があると考えます。(芸術団体関係者)</p>
<p>(2)実演芸術家等の積極的な活用</p> <p>全体</p>	<p>○方策のポイントで、「技能の高い実演芸術家等が行う意欲的な取組などに対して公演の創作から実施までの一体的な支援を検討する」とありますが、芸術団体や公立文化施設等への支援システムの改善を早急に行い、実演芸術家等が仕事に打ち込める環境を整備していただきたい。また、「地域において劇場等を中心とした芸術拠点の形成を促進するための支援を充実させる」とありますが、十分な予算措置はもちろんのこと、「劇場法(仮称)」を導入するなどして国が地域と協働して公立文化施設の取り組みを促進する方向性を法的に明確にし、文化施設に実演芸術家や芸術団体が恒常的にいる状況を各地に整備し、地域の教育との連携をはじめとして、実演芸術家等が活躍できる場を広げ、地域の活性化、舞台芸術の振興にプラスになっていく戦略的な政策を期待します。文化庁が実施した芸術団体、芸術系大学に対するアンケートの回答から、実演芸術家の育成及び活用について今後課題と思われることとして「実演芸術家として活躍するための公演機会の拡大」「子供の頃から芸術に触れる機会を増やすこと」という選択肢が、芸術団体、大学の双方の回答で高い回答率となっています。人材育成の観点だけではなく、公演機会を拡大し、子どもの頃から芸術に触れられる機会を拡充するためにも、地域の芸術拠点の活性化は効果的な政策であり非常に重要です。(芸術団体関係者)</p>
<p>(2)実演芸術家等の積極的な活用</p> <p>ii)劇場等における活動機会の提供</p>	<p>○この部分は比較的東京以外の地域でもあてはまる部分かと思えます。しかしながら、東京以外の地域にこれらの事業を行うことができる劇場は大変少ない。といわざるを得ません。この報告の内容が可能となる劇場は、少なくとも以下の2点を備えていることが必要だと考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一定以上の自主制作事業や育成事業の実績のある劇場 2 地域に育成の対象となるべき、趣味のレベルを超えた活動をしている団体が複数ある。 <p>しかしながら、そのような劇場は、東京以外の地域には数少ないと思われます。現在の公共劇場は、貸し館や買い公演中心の運用になっており、地域の人材の育成事業のノウハウがない劇場が大半だと思います。よって、本報告でもっとも東京以外の地域を意識して書かれたと思われるこの部分についても、ごく少数の地域を除いた地域では実効性のあるものにはならないだろうと思えます。(35歳・NPO事務局長)</p> <p>○公演の質を上げていくため、地方公共団体は公共施設において実演芸術家等に活動の場を積極的に提供することが重要である。具体性に欠ける記述だと思います。劇場をつくり貸し館運用するということなのか、アウトリーチの機会をつくるということなのか積極的な自主制作事業を行い地域の実演芸術家を起用するということなのか、公共劇場の雇用を地域の実演芸術家に割り当てるといったことなのか、地域の状況が見えず、地域課題への提言に具体性がないと感じる理由です。(35歳・NPO事務局長)</p>
<p>(2)実演芸術家等の積極的な活用</p> <p>iii)実演芸術家等の受け皿の整備</p>	<p>○育成された人材は、そのスキルを持って就職活動をしてゆくゆくはプロとしてその道で生活できる社会環境を構築することが到達点と考えます。その受け皿として、地域における舞踊団やカンパニー(以下団体という)に就職する。その団体の活動と財政基盤が確固たるものでなければなりません。その団体のサポーターを募り、そのサポーターが拠出した協賛金や寄付金が一定以上の額に対して行政が助成する。また、その団体の活動拠点として、団体の所在地に近い公共劇場を低額で貸与する。このような制度を確立し、地域ごとに団体を募り、厳しい審査で選出することは当然だと考えます。なお、広くサポーターを募るには、他の項目にもあるように、「国民の文化芸術活動の充実」や「地域に根ざした舞台芸術の展開、国民意識の醸成等」を実践して環境を充実させた上でのことかも知れません。(69歳・ダンスプロデューサー)</p>
<p>(2)実演芸術家等の積極的な活用</p> <p>iv)実演芸術家等の育成及び活用</p>	<p>○イメージとしては、NHK教育『課外授業ようこそ先輩』のように、学校現場における実演芸術家等(在籍教諭以外の外部指導者)の弾力的な受け入れ体制(ソフト面)の充実が望まれます。芸術家に対する現場のニーズは確実にあると思います。芸術家と、公的性質をもった学校(小・中・高)をつなぐ術が、十分に整備されているのかが解りません。「やりたい」という芸術家と、「呼びたい」という教育現場が互いにフットワーク軽く、つながれるパイプの整備を切望します。(33歳・公立高校教諭)</p> <p>○「小中学校から演劇教育や舞踊の基礎を取り入れ、キャリアと一定の知見を有した人が指導に当たること」が実現される際には、長期的で継続性のある教授活動が必須だと思います。講演やワークショップ等の単発的な活動は小・中・高校でも既に実例があると思いますが、長期的・継続的な教授活動が成されているのは特定の高等教育機関(芸術系大学等)のみではないでしょうか。小・中・高・大学、それぞれの発達段階において常に実演芸術家のような専門的指導者が教育に関われる場作りを望みます。(33歳・公立高校教諭)</p>

及び活用に向けた環境整備	<p>○コンセルヴァトワールのような専門的な教育機関の設立も重要だと思いますが、現場にいるものの感覚としては、既存の教育の場である小・中・高校というコミュニティーを実演芸術家が大いに「利用する」ことが、観る者・演る者の両方を育てることにつながると考えます。特に、自我の形成や自らの特性・適性に応じた進路実現を考えている高校生に日々向かい合っている自分は、大学等の高等教育に特化する前の段階でいかに興味深いこと・もの・人に出会う機会を彼ら(生徒)に提供できるかということを大切にしたいと思っています。そのためには、実演芸術家の活用を、現場で働く現職教諭の資質・能力向上に対して施す(実演芸術家の指導の下、先生向け長期ワークショップや研修制度の充実等)形で実現することも有益なのではないかと考えます。(33歳・公立高校教諭)</p>
(3)実演芸術家等の育成及び活用に向けた環境整備全体	<p>○普段舞台芸術に対して難解な印象を感じている人々、また興味・関心の無い人々、まずそこから文化力を興していくために、地元の人材を活用し、起用・活かすことが、不可欠だと実感します。具体的に、市民のネットワークを最大限に活用し、(1)一般市民を参加させる(地元の人材を活かす)。(2)地元の人たちが共同運営者となる(地元の人たちと協力体勢を整える)。(1)、(2)は、『どうやって人を集めるか?』、この解決策になります。また民間の力で興すネットワークの充実を図ることで、価値観の違う人々を劇場に集めることができる。価値観の違いがむしろ文化力を興す起爆材になると考えます。具体的に、コーラスグループ(市民サークル)とコラボレーションすることで、舞踊のみならず音楽の世界に観客を引き込むことができました。プロのアーティストが専門性に捉われず、教えるのではなく、むしろ民間から学び、そこからあらたな芸術作品を生み出して行く発想、このような意識をきちんと持つ人材(指導員)を育成するには、実践現場で学んでもらうのが一番です。舞台製作については、工夫次第で地元にあるものを活かし、地元の人たちと協力してコスト削減につなげることができ、むしろその方が地域性・オリジナリティーも豊富になります。しかし、事業に参加する人材に対する人数(交通費・宿泊費・日当)は、年々削減の傾向にあり、それでは社会貢献できるアーティストを育てることはできません。すでに若き舞踊家を含め国内で民間を通じた直接的な人材育成を実践していますが、出演料は発生しても指導料は発生しない等、やりくりしているのが現状です。悲しいのは地元で快く協力して下さった民間の協力者(運営)の方々にも何もお礼ができないことです。(43歳・舞踊家)</p> <p>○実演芸術家等が安心して創造に打ち込める環境づくり、怪我などへの補償を含む労働条件等の改善は、人材育成に大変重要なことです。国の事業、支援事業を含め契約内容の見直しなど実効ある方策が進められることを切に願います。また、「人材育成」の観点からだけでなく、国民の芸術への参加機会の拡充、とりわけ子どもたちの芸術活動の拡充や、地域間に顕著にみられる鑑賞・体験の機会の格差是正、戦略的支援など、第二次基本方針で掲げられているほかの重点事項にかかわる取組みが不可欠です。施策の関連に留意し、舞台芸術振興全体を視野にいれつつ、着実に人材育成が図られていくよう施策の改善と充実を望みます。(芸術団体関係者)</p>
(3)実演芸術家等の育成及び活用に向けた環境整備 ii)国民の文化芸術活動の充実	<p>○地域の教育機関(小・中学校)に招へいされる舞台芸術の内容について、「(薬に例えれば)作用・副作用が同居するパンチの効いた作品」がほとんど無く、多人数の会議でまとめられた「無難な作品」ばかりが上演され、子ども達から多様な視点や考え方を奪い、議論や考察の余地を与えない現状下にあります。「パンチの効いた作品」を上演するには、トップダウン形式による作品選定を行い、上演後にその効果について検証するという手段が適しているものと提言させていただきます。それが、本報告にある、「子どもの頃から、興味を持って能動的に鑑賞を進める」「他者の考え方、などに対してキャパシティが広がる」ものと考えます。(34歳・男性)</p>